

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	5月28日(火)	第54回通常総会	東 京	2号1ページ参照
北海道支部	2月22日(月)	研究発表会	札 幌 市	2号3 "
	3月5日(火)	講 習 会	同	2号3 "
中 部 支 部	2月22日(木) ~24日(土)	セメントコンクリート講習会	名 古 屋 市	1号6 "
	3月15日(金)	第4回見学会	同	2号4 "
関 西 支 部	2月16日(金)	臨海地帯水問題研究会	大 阪 市	1号6 "
	3月12日(火)	岩盤および硬土盤掘削に関する講習会	同	2号4 "
	3月27日(水) ~28日(木)	騒音振動公害に関する講習会	同	2号4 "
	3月27日(水)	若い会員懇親パーティ	同	2号5 "
	5月12日(日)	支部年次学術講演会	同	2号6 "
中国四国支部	3月25日(月) ~27日(水)	見 学 会	広 島 外	2号7 "
	3月29日(金)	講 演 会	広 島 市	2号7 "
西 部 支 部	2月28日(水)	支 部 総 会	福 岡 市	2号8 "
	2月28日(水)	研究発表会	同	2号8 "
そ の 他	2月19日(月) ~20日(火)	第6回原子力総合シンポジウム	東 京	2号10 "
	2月25日(月) ~27日(水)	コンピューター使用によるマトリックス構造解析講習会	同	2号10 "
	3月16日(土)	「金属のサフェシング」シンポジウム	同	2号7 "
お知らせ	■日本学術会議会員選挙に関する有権者名簿の登録について ■第3回「国土開発映画コンクール」作品募集について ■昭和43年度論文集予約申込みについて			1号3 " 2号2 " 2号2 "

第54回通常総会開催のお知らせ

昭和43年の通常総会は、つぎの日程で東京都において開催いたします。多数ご参加下さい。

- 開催日時：1968年5月28日(火) 13.00~18.00
- 場 所：私学会館7階講堂(国電市ヶ谷駅下車徒歩3分)
- 次 第：

総 会 事 業 報 告
 決 算 報 告
 名 誉 会 員 推 挙
 土 木 学 会 賞 授 与
 新 役 員 の 紹 介
 特 別 講 演 会 長 講 演 ほ か
 懇 親 会 私 学 会 館 7 階

なお第23回年次学術講演会は、この度から通常総会とは分離して、1968年10月11日(金)~15日(火)の間、名古屋市名古屋大学において開催します。このほか、特別講演、部門講演、PR講演、懇親会、見学会等をあわせて行ない「土木学会 昭和43年度全国大会」と称することになりました。この大会のくわしいことはあとでお知らせいたします。

第 3 回「国土開発映画コンクール」作品募集

土木学会は、昭和 39 年秋、昭和 41 年秋と 2 回にわたり「国土開発映画コンクール」を開催いたしました。この実績にかんがみて、今年も映画コンクールを開催し、もって最近の土木技術発展のあゆみを広く周知させ、あすの国土開発に寄与したいと考えております。なお今回も、建設省ならびに日本国有鉄道のご後援を得て開催いたします。

ふるってご応募下さるよう、また、関係の向におすすめ下さるようお願い申し上げます。

これまでの優秀作品は土木学会「フィルム ライブラリー」として活用しており、年間の視聴者は 1 万名以上のぼっております。今後も今回の優秀作品を含め土木学会はもちろん、一般の活用を推進する予定であります。

第 3 回「国土開発映画コンクール」要領

1. 内 容 : 国土開発に関し、土木技術を主とした映画（特定企業の宣伝色の濃いものはご遠慮下さい）
2. 規 格 : 16 mm カラートーキー（上映時間約 20 分以上）昭和 41 年 11 月以降の作品に限る
3. 締 切 : 昭和 43 年 9 月 30 日
4. 申 込 先 : 社団法人 土木学会総務課あて（申込書があります）
（東京都新宿区四谷 1 丁目 電話 東京 351-4133）
5. 審 査 : 土木学会内 映画審査委員会
6. 賞 状 : 1 等 1 編, 2 等 2 編, 3 等 3 編 各賞ならびに賞牌（ただし該当作品のない場合は変更することがあります）
7. 発 表 会 : 昭和 43 年 11 月 20 日（東京都内）

昭和 43 年度論文集予約申込みについて

◀ 申込締切 3 月 31 日 ▶

昭和 43 年度論文集（43 年 4 月～44 年 3 月）の予約申込みを行ないますので、ご希望の方は年間購読料 1 000 円（外地の場合は 6 ドル）を添えて、3 月 31 日までに申込み下さい。従来購読されておられる方もお忘れなくお申込み下さい。

「本州四国連絡橋技術調査報告書」特別頒布

本学会が建設省および日本鉄道建設公団より委託をうけていた成果がこのほど上記報告書の形で完成し、それぞれ委託者に提出された。本報告書は学術的にも技術的にもきわめて貴重なものであり、委託者のご厚意により限定部数にかぎり増刷の許可をえたので希望者は至急申込みたい。

記

本州四国連絡橋技術調査報告書	A 4	504 ページ（活版印刷）
〈同・付属資料 1〉		
耐風設計指針（1967）および同解説	A 4	182 ページ（ " ）
〈同・付属資料 2〉		
耐震設計指針（1967）同解説および耐震設計詳説	A 4	194 ページ（ " ）
〈同・付属資料 3〉		
鋼材に関する調査資料	A 4	142 ページ（オフセット）
以上 4 冊・上製箱付合本 合計	A 4	1 022 ページ

頒 価 : 9 000 円（送料とも）

申込要領：前金で土木学会刊行物頒布係へお申込み下さい。先着順に締切ります。

北海道支部行事案内 (札幌市南1条西2丁目 勸銀ビル5階 電話 札幌(0122)25-7038)

(1) 研究発表会

◀ 2月26日(月) ▶

1. 場 所: 札幌市民会館

2. 発表内容:

第1会場(札幌市民会館2階1号室)

- ① 9.45~10.00 主げたのねじり剛性を考慮した斜角格子けたの荷重分配性状 北見工大 菅原 登
- ② 10.00~10.15 アフィン荷重法による直および曲線連続桁の解析 北大 稼農 知徳
- ③ 10.15~10.30 断面変形を考えた2室箱桁の応力解析について 室蘭工大 能町純雄・尾崎 諒・○杉野 啓
- ④ 10.30~10.45 コンクリート箱桁の曲げねじりにおけるハンチ等の影響 室蘭工大 尾崎 諒
- ⑤ 10.45~11.00 定和分変換による曲線格子桁の解法—開断面主桁の場合— 室蘭工大 能町純雄・○岡村忠夫・吉田敏一
- ⑥ 11.00~11.15 斜支承を有する連続格子桁について 道コンサルタントKK ○青木 弘・能町純雄
- ⑦ 11.15~11.30 和分変換による曲線格子桁の解法 函館ドックKK 能町純雄・阿部俊規・池田静男・○小針康司
- ⑧ 11.30~11.45 3径間連続逆ランガー桁の振動について 函館ドックKK 瀬谷拓治・○浅野幸雄
- ⑨ 11.45~12.00 成る斜角格子桁に関する一考察 函館ドックKK ○瀬谷拓治・○村井英治

(昼食休憩)

- ⑩ 13.00~13.15 フーリエ級数による連続曲線桁の解析 北大 薄木 征三
- ⑪ 13.15~13.30 アナログ計算機による線型および非線型の地震応答スペクトル解析と耐震設計法について二、三の考察 北大 渡辺 昇
- ⑫ 13.30~13.45 曲線連続桁の曲げねじり特性について 北大 渡辺 昇・○佐藤浩一
- ⑬ 13.45~14.00 斜張橋の構造特性について 北大 渡辺 昇・多田和夫・○宮本 裕
- ⑭ 14.00~14.15 曲線格子桁の横桁本数による荷重分配性状について 北大 稼農知徳・○佐伯 昇

(休憩 15分)

- ⑮ 14.30~14.45 S字曲線桁の構造特性について 北大 渡辺 昇・○薄木征三
- ⑯ 14.45~15.00 有限要素法による直角三角形板の解析について 北大 酒井忠明・芳村 仁・○奥村 勇
- ⑰ 15.00~15.15 鋼管桁橋の設計理論と基礎模型実験について 室蘭工大 中村作太郎
- ⑱ 15.15~15.30 岩尾内沢橋の設計について 道コンサルタントKK 猪狩技夫・津田賢次・高谷 弘○鈴木欣治
- ⑲ 15.30~15.45 無意根大橋架設工事について 道コンサルタントKK 竹中勝好・津田賢次・○進藤義郎
- ⑳ 15.45~16.00 新豊橋架設工事について—ディビダーク工法による斜材TL型ラーメン— 道コンサルタントKK 木元喬之・津田賢次・高谷 弘・○吉田希男

第2会場(札幌市民会館2階3号4号室)

- ① 9.45~10.00 十勝川流域における降雨特性 開発局 江利川 喜一
- ② 10.00~10.15 北海道主要都市における確率雨量強度式について—生起頻度を含む型式について— 道庁 昌 節雄
- ③ 10.15~10.30 変断面河道に現われる特異点の検出とその流量の増減に伴う変動について 道庁 浅野 優
- ④ 10.30~10.45 乾ドック拡張工事の1例について—函館ドックKK館区造船所第1乾ドック拡張工事の概要— 函島建設KK 土志田練達郎○川村政良
- ⑤ 10.45~11.00 風による二層流の混合に関する研究 北大 岸 力・○加藤正進
- ⑥ 11.00~11.15 札幌市藻岩浄水場における自計装設備について 札幌市 阿本 成之
- ⑦ 11.15~11.30 電気抵抗式土壌水分計の設計とその周波数特性 教大山形 積治
- ⑧ 11.30~11.45 くい(pile)打ち公式に反発係数eを算入することの矛盾について 産大 今井 芳雄
- ⑨ 11.45~12.00 鋼杭の横抵抗を利用した鋼矢板護岸の設計について 北電 酒井賢一・○湯浅健二

(昼食休憩)

- ⑩ 13.00~13.15 Sideway Force 法による道路の滑り測定 北大 板倉忠三・加来照俊・○塩田 行・富松義晴
- ⑪ 13.15~13.30 氷結道路の最急縦断勾配距離算出の1方法 北大 板倉忠三・加来照俊・○久保田守
- ⑫ 13.30~13.45 北海道の交通特性について(その2)—主として速度について— 北大 板倉忠三・加来照俊・斎藤和夫・堀江清一・金沢孝司
- ⑬ 13.45~14.00 交通事故解析の1方法とその応用 北大 板倉忠三・加来照俊・○斎藤和夫
- ⑭ 14.00~14.15 レーンマークに関する基礎的研究—車輛走行状態からみた交通現象— 北大 板倉忠三・加来照俊・○小笠原晋二・小林敏夫
- (休憩 15分)
- ⑮ 14.30~14.45 モンテ・カルロ法による日程計画に関する1考察 北大 山村 悦夫
- ⑯ 14.45~15.00 加熱タール合材の力学的基礎性状について 北大 ○中島雄雄・上島 壮・森吉昭博・菅原照雄
- ⑰ 15.00~15.15 北海道産道路用骨材の試験値間の関連について 開発局 ○久保 宏・熊谷茂樹・大谷正男
- ⑱ 15.15~15.30 神居ずい道の設計および施工 国鉄 伊藤友太郎

3. 以上の“発表論文集”は当日会場で頒布します。ただし支部所属会員は無料

(2) 講習会

◀ 3月5日(火) ▶

1. 場 所: 札幌市民会館

2. 講習科目:

- ① 9.35~10.55 河川汚濁の解析 北大工学部 丹 保 憲 仁
- ② 11.00~12.20 港湾関係模型実験における最近の手法 北大工学部 尾 崎 晃
- ③ 13.20~14.40 多目的ダムの自動制御について 北大工学部 山 岡 勲
- ④ 14.45~16.05 河川における流量時系列の解析方法 北大工学部 岸 力

3. 受講無料: テキスト有料頒布

中部支部行事案内 (名古屋市東区東新町 10 番地の 1
中部電力(株)水力部土木課内 電話 名古屋 (052) 951-8211 内線 3430)

第 4 回見学会

◀ 3 月 15 日 (金) ▶

1. 見学先: 名古屋市地下鉄工事
2. 期 日: 1968 年 3 月 15 日 (金)
3. 定 員: 100 名
4. 集 合: 名古屋市栄テレビ塔北側 13.20 分
5. 会 費: 無 料
6. 見学場所: ① 1号線東部高架工事 (藤森地区)~② 1号線西部地下工事 (中村地区)~③ 地下鉄名古屋駅改造工事
7. 申 込 み: 1968 年 3 月 9 日 (土) までに中部支部に勤務場所氏名をご連絡ください。

関西支部行事案内 (大阪市東成区中道元町 1 丁目 149 番地
電話 大阪 (06) 981-2510 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 岩盤および硬土盤掘削に関する講演会

◀ 3 月 12 日 (火) ▶

主 催: 日本建設機械化協会関西支部
協 賛: 土木学会 関 西 支 部

1. 期 日: 1968 年 3 月 12 日 (火)
2. 場 所: 日本経済新聞大阪本社新館 7 階大講堂 電話 大阪 (06) 231-0321
大阪市東区高麗橋 1-1

3. 題目と講師:

9.20~9.30	開会の挨拶	主催協会技術部長	谷 本 喜 一
① 9.30~10.10	掘削工法の現状と展望	京都大学教授工学部 工博	嶋 昭 治 郎
② 10.10~11.10	岩盤掘削に関する二、三の問題点	京都大学教授工学部 工博	伊 藤 一 郎
③ 11.10~12.10	水路および地下発電所の掘削について	関西電力(株)東海支社土木課長	田 村 真 道
④ 13.10~14.10	国際岩盤力学会議に出席して	京都大学教授防災研究所 工博	村 山 朔 郎
④ 14.10~15.10	硬土盤液凍に関する諸工法	運輸省港湾技術研究所機材部長	松 田 任
⑥ 15.10~16.10	海底の基礎掘削について	近畿地建本州四国連絡道路調査事務所長	相 良 正 次

4. 定 員: 300 名
5. 参加費: 主催協会・協賛学会 会員 1 000 円 (テキスト代を含む)
ただし講演会当日は会員でも 1 200 円となりますから申込期限内に前納して下さい。
非会員 1 500 円 (テキスト代を含む)
6. 申込期限: 1968 年 2 月 29 日 (木)
7. 申込方法: 参加希望者は勤務先および課・係名, 連絡先, 氏名, 所属協会・学会名を明記 (様式随意) して 参加費を添えて下記申込先へお申し込み下さい。一度納金されたものはお返しいたしませんからあらかじめご了承下さい。
8. 申 込 先: 日本建設機械化協会関西支部 電話 大阪 (06) 941-8845
大阪市東区谷町 1-50 大手前建設会館内

(2) 騒音振動公害に関する講習会

◀ 3 月 27 日 (水)~28 日 (木) ▶

主 催: 土木学会 関 西 支 部
協 賛: 日本建築学会近畿支部・土質工学会関西支部

最近では都市およびその周辺での建設工事と交通車輛の急激な増大のため, 騒音, 振動, 公害が大きな問題となっております。土木学会関西支部では昭和 41 年 4 月より騒音振動委員会を設け, 公害の実態およびこれが対策について検討いたしておりますが, このたび下記内容の講習会を開催いたしますのでふるってご参加下さい。

記

1. 期 日：1968年3月27日(水)、28(木)の両日
 2. 場 所：大阪科学技術センター3階大ホール 電話 大阪(06)443-5321
 大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m靱公園北東角)

3. 題目と講師：

第1日(3月27日)

- | | | |
|-------------|------------------------|--|
| 9.30~10.30 | ① 総 説 | 土木学会関西支部長 河村重俊
京都大学教授 医博 庄司光 |
| 10.30~12.30 | ② 測定法と測定計器 | |
| | (a) 騒 音(10.30~11.30) | リオン(株)理博・工博 守田栄 |
| | (b) 振 動(11.30~12.30) | 神戸大学教授 工博 畑中元弘 |
| 13.30~16.30 | ③ 公害の実態 | |
| | (a) 講 演(13.30~15.30) | |
| | 1. 騒 音 | 大阪市総合計画局公害対策部技術課長 谷川敏夫/神戸市衛生局主幹 医博 花田完五/
京都大学教授 医博 山本剛夫/国鉄山陽新幹線工事局次長 吉村 恒 |
| | 2. 振 動 | 京都大学教授 工博 後藤尚男/国鉄大阪工事局次長 杉浦 弘/立命館大学教授 工博 畠山直隆/
神戸市衛生局主幹 医博 花田完五/神戸市土木局道路部補修課長 横山 実
座長 京都大学教授 工博 後藤尚男 |
| | (b) パネル討議(15.30~16.30) | |

第2日(3月28日)

- | | | |
|-------------|------------------------|---|
| 9.30~11.30 | ④ 影響と許容値 | |
| | (a) 騒 音(9.30~10.30) | 京都大学教授 医博 山本剛夫 |
| | (b) 振 動(10.30~11.30) | 福井大学教授 工博 鳥海 勲 |
| 11.30~12.30 | ⑤ 公害防止条例 | 大阪市総合計画局公害対策技術課長 谷川敏夫 |
| | ⑥ 軽減対策 | |
| | (a) 講 演(13.30~15.00) | |
| | 1. 騒 音 | 京都大学教授 医博 庄司光/京都大学教授 医博 山本剛夫 |
| | 2. 振 動 | 福井大学教授 工博 鳥海 勲/京都大学教授 工博 畠 昭治郎/
(株)大林組技術研究所振動研究室長 渡辺清治
座長 京都大学教授 医博 庄司光 |
| | (b) パネル討議(15.00~16.30) | 土木学会関西支部騒音振動委員会委員長 庄司光 |
| | 閉会の挨拶 | |

4. 定 員：300名(先着順)

5. 参 加 費：主催、協賛学会 会員 1300円(テキスト代を含む)

ただし講習会当日は2000円となりますので期限内に前納して下さい。

非会員 2000円(テキスト代を含む)

6. 申 込 期 限：1968年3月12日(火)

7. 申 込 方 法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名、会員の種別(所属学会名)を明記(様式随意)し、上記参加費を添えて
 3月12日(火)までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。

参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。

参加証のない人は入場をお断りします。

(注)都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

(3) 若い会員懇親パーティ(第3回)

◀ 3月27日(水) ▶

若い会員相互の親睦をはかりたいと存じますので、多数ご参加のうえ自由なご発言をお待ち申し上げます。

1. 日 時：1968年3月27日(水)17時よりの予定(騒音振動公害講習会第1日終了後)

2. 場 所：大阪科学技術センター7階701号室 電話 大阪(06)443-5321

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m靱公園北東角)

3. 参加者資格：35才未満の土木学会会員

4. 定 員：50名(先着順)

5. 参 加 費：無料

6. 申 込 期 限：1968年3月12日(火)

7. 申 込 方 法：参加希望者は勤務先、連絡先および氏名を明記(様式随意)し、3月12日(火)までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(4) 関西支部年次学術講演会 (昭和 43 年度)

◀ 5 月 12 日 (日) ▶

1. 日 時: 1968 年 5 月 12 日 (日) 9.00~17.00

2. 場 所: 大阪工業大学 電 大阪 (06) 952-3131
 大阪市旭区大宮北之町 1-158 市電大宮町下車

プログラム, 講演概要の頒価およびその他の事項については学会誌 4 月号に掲載の予定です。講演ご希望の方はつぎの講演申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。

年次学術講演会申込要領

- 1) 講演申込方法: 講演希望者は申込カード (4 枚複写綴) に 部門, 題目, スライドの有無, 勤務先, 会員種別, 学位, 氏名 (連名の時は講演者に○印をつける), 卒業学校名および年次, 連絡先を明記のうえ, 2 月 15 日 (木) までに, 土木学会関西支部へ必着するよう提出して下さい。申込カードは関西支部へ請求して下さい。
- 2) 講演内容: 講演は未発表のもので 1 人 1 題にかぎります。
- 3) 講演時間: 1 題につき 15 分の予定です。
- 4) 講演部門: つぎの 4 部門にわけますが, 都合により, 講演者の了承を得たうえで, 部門を変更させていただくことがあります。
 第 1 部門: 構造力学・構造・橋梁等
 第 2 部門: 水理学・水文学・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生工学等
 第 3 部門: 土質力学・基礎工学・土木機械・施工等
 第 4 部門: 鉄道・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・空港・測量等
- 5) 原稿提出要領: 講演申込者にはつぎの要領で講演概要の原稿を提出していただきます。
 1. 講演概要は講演者の原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますから, 必ず所定の用紙をご使用下さい。
 2. 用紙は執筆要領 (原稿の書き方) とともに講演申込者に関西支部からお渡します。
 3. 原稿は 3 月 30 日 (土) (期限厳守) までに関西支部へ必着するようお送り下さい。
 4. 原稿の長さは 1 題につき 2 ページ (図表, 写真を含め 1 ページ 1 480 字詰) を原則とします。超過する場合は 2 ページまで, 1 ページにつき 1 000 円の製版料を申し受けます。
- 6) 講演概要: 講演者 (○印) には無料, 一般は有料, 別刷は講演者 (○印) には 30 部無料で差し上げますが, それ以外の取扱いはいたしません。

(付) テキスト頒布について

写真測量とその応用	頒価	800 円	送料	80 円
土木工学における動的現象の計測とデータ処理	"	700 円	"	80 円
水理学・水文学における最近の進歩	"	1 000 円	"	100 円
水理公式集の解説と例題	"	375 円	"	80 円
都市環境衛生	"	450 円	"	80 円
海岸工学の最近の進歩	"	700 円	"	80 円

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部 (振替口座利用) へお申し込み下さい。

工業高校土木科教諭を対称とした夏期講習会テキスト頒布について

昨年 8 月 2~4 日東京にて開催した標記講習会に使用したテキストの残部がありますのでご希望の方は土木学会までお申し込み下さい。

山本 稔: 平面光弾性実験の理論と実験
 堀井健一郎: 抵抗線ひずみ計によるひずみ計測の原理と実験 } 実費: 300 円 (〒共)

中国四国支部行事案内 (広島市基町 10 番 3 号 自治会館内
土木学会中国四国支部事務局 電話 広島 (0822) 21-2666)

(1) 見 学 会

◀ 3 月 25 日 (月)~27 日 (水) ▶

昭和 42 年度中国四国支部見学会を下記のとおり開催します。多数ご参加下さい。

1. 日 時 : 1968 年 3 月 25 日 (月)~27 日 (水)
2. 参加費 : 5000 円
3. 予約金 : 1000 円, 参加を取消されても予約金はお返しいたしません。
4. 日 程 : 3 月 25 日 (月) 8:00 : 広島県庁前出発~本四調査事務所~大阪 (泊)
3 月 26 日 (火) 大阪~万博~阪神高速~琵琶大橋~京都~広島 (27 日 7.30 着)
5. 定 員 : 40 名 (定員になり次第締切らせていただきます)
6. 申込方法 : 下記用紙に必要事項をご記入の上 2 月 29 日 (木) までに現金書留にて申込み下さい。

住 所			
氏 名	年 令 才		
勤 務 先			
予 約 金	1 0 0 0 円	電 話	勤 務 先 自 宅

7. 申 込 先 : 広島市基町 10 番 3 号 自治会館内 土木学会中国四国支部事務局

(2) 第 3 回 講 演 会

◀ 3 月 29 日 (金) ▶

昭和 42 年度第 3 回講演会を下記のとおり開催します。本掲載をもって案内といたしますので会員多数ご出席下さい。

1. 日 時 : 1968 年 3 月 29 日 (金) 10.30~16.10
2. 場 所 : 広島市上八丁堀 6-30 (広島合同庁舎大会議室)
3. 題目および講師 :

10.10~11.40	最近の鋼材について	東京大学教授 奥 村 敏 恵
13.00~14.30	水資源計画について	東京大学助教授 高 橋 裕
14.00~16.10	最近の交通計画について	京都大学教授 米 谷 栄 二
4. 参加費 : 無 料

コンピューター使用によるマトリックス構造解析講習会

◀ 2 月 25 日 (月)~27 日 (水) ▶

主催:日本鋼構造協会
後援:土木学会ほか 6 団体

1. 日 時 : 1968 年 3 月 25 日 (月)~27 日 (水) 9.00~16.30
2. 場 所 : 国鉄労働会館 (東京都千代田区丸の内 2-1 電話 231-4816)
3. 定 員 : 150 名
4. 受講料 : 会員 ; 6000 円, 非会員 ; 9000 円, 学生 ; 3000 円 (ただし, 会員あつかいは日本鋼構造協会会員であること)
5. 受講対象 : 大学卒業後 3~4 年の技術者
6. 申込締切 : 1968 年 3 月 16 日 (ただし満員次第締切ります)
7. 申込方法 : 所定の申込用紙に記入の上受講料を添えて日本鋼構造協会 (東京都千代田区丸の内 3-2 新東京ビル 848 電話 212-0875) へ申込んで下さい。

西部支部行事案内 (福岡市警固 2 丁目 11 の 12 電話 福岡 (092) 74-1972)

(1) 昭和 42 年度支部総会

◀ 2 月 28 日 (水) 9.00 ~ ▶

昭和 42 年度支部総会を下記のとおり開催します。本掲載をもって、案内といたしますので、会員多数ご出席下さい。

記

1. 日 時: 1968 年 2 月 28 日 (水) 9.00~
2. 場 所: 福岡市平和台 福岡大学第 2 部学舎 (市電, 西鉄バス大手門下車)
3. 備 考: 総会終了後研究発表会を開催いたします。

(2) 昭和 42 年度研究発表会

◀ 2 月 28 日 (水) 10.00 ~ ▶

1. 日 時: 1968 年 2 月 28 日 (木) 10.00~
2. 場 所: 福岡市平和台 福岡大学第 2 部学舎
3. 参 加 料: 無料, 論文集代 1000 円 (当日払)
4. プログラム:

◎ 第 1 会場 (応用力学・構造力学・橋梁等 (1) (18 題))

- | | |
|--|------------------------|
| ① 皮膜法に関する実験的研究 | 九 大 村上 正・○斎藤利一郎 |
| ② 八角孔を有するカステレーテッド・ビームの実験的研究 | 九 大 村上 正・斎藤利一郎・○藤田 寛孝 |
| ③ 台形孔を有するカステレーテッド・ビームの実験的研究 | 九 大 村上 正・斎藤利一郎・○平野喜三郎 |
| ④ 連続矩形板の振動解析 | 九 大 山崎 徳也・○横田 漢 |
| ⑤ 曲げと捩りモーメントを同時に受ける立体ラーメンの弾塑性解析 | 九 大 山崎 徳也・太田 俊昭・○片山 忠 |
| ⑥ 変断面斜板の座屈荷重算定法 | 九 大 山崎 徳也・彦坂 照・○葛城幸一郎 |
| ⑦ 弾性支持ばりをもつ矩形板の解法——はり部材列の捩り抵抗を考慮する場合—— | 九 大 山崎 徳也・樗木 武・○金子 忠男 |
| ⑧ 有限要素法による有梁板の解析 | 九 大 山崎 徳也・太田 俊昭・○馬場先勝弘 |
| ⑨ 連続斜板の自由振動解析 | 九 大 山崎 徳也・彦坂 照・○古川 恒雄 |
| ⑩ 変動くり返し荷重による山形ラーメンの崩壊 | 九 大 山崎 徳也・石川 信隆・○松隈 秀信 |
| ⑪ 一対辺が中間支柱にて剛結支持される等方形矩形板の解法 | 九 大 山崎 徳也・樗木 武・○山田嘉四夫 |
| ⑫ 歪硬化を考慮した立体ラーメンの弾塑性解析——部材が純曲げ、純捩りモーメントを個々に受ける場合—— | 九 大 山崎 徳也・太田 俊昭・○川島 基義 |
| ⑬ 局部的等分布荷重を受ける矩形板の安定——有限要素法による解法—— | 九 大 山崎 徳也・後藤恵之輔・○久保 伸一 |
| ⑭ 有限要素法による折板の解析 | 九 大 山崎 徳也・太田 俊昭・○坂本 紘二 |
| ⑮ Circular Length Method によるラーメンの弾塑性解析 | 九 大 山崎 徳也・石川 信隆・○千々岩敏男 |
| ⑯ 応力法による一方向連続矩形板の解法 | 九 大 山崎 徳也・樗木 武・○高橋 和雄 |
| ⑰ 複鉄筋コンクリートばりの曲げクリープ解析 | 九 大 山崎 徳也・彦坂 照・○羽根 悟朗 |
| ⑱ 片持矩形板の弾塑性解析 | 九 大 山崎 徳也・太田 俊昭・○中村 賢二 |

◎ 第 2 会場 (応用力学・構造力学・橋梁等 (2) (18 題))

- | | |
|--|-----------------------------------|
| ① エネルギー法による移動荷重を受けるラーメンの弾塑性解析 | 九 大 山崎 徳也・○太田 俊昭 |
| ② 直交関数系展開式による連続ばりおよびラーメンの自由振動解析 | 九 大 山崎 徳也・○樗木 武 |
| ③ 鉄筋コンクリートスラブの曲げクリープ解析 | 九 大 山崎 徳也・○彦坂 照 |
| ④ 円形曲り梁の走行荷重による強制振動 | 九 大 山崎 徳也・○崎山 毅 |
| ⑤ 立体トラスげたの自由振動解析法 | 九 大 村上 正・山口大学 ○会田 忠義 |
| ⑥ 立体トラスの弾性挙動について | 九 大 村上 正・○山野 宏・山口大 会田 忠義 |
| ⑦ 級数和による層モーメント・バランス法 | 熊 大 吉村 虎蔵・八女工高 ○塚本 正文 |
| ⑧ 水平に弾性拘束を与えた上路式補剛アーチ橋の結合法による動的解析と拘束効果 | 熊 大 ○吉村 虎蔵・中島 国一・佐世保重工 高村 清・藤本 昭三 |
| ⑨ 種々の荷重の走行による連続桁の動的応答 | 熊 大 吉村 虎蔵・○田久 英明 |
| ⑩ 材の途中にヒンジをもつばり構造の結合法による動的解析の基礎式 | 熊 大 吉村 虎蔵・平井 一男・○加藤 勝敏・田久 英明 |
| ⑪ 立体構造物の無次元解析 | 熊 大 三池 亮次 |
| ⑫ 無次元解析法によるアーチダムのたわみ、および応力の挙動特性の研究 | 熊 大 三池 亮次・○田中 重範 |
| ⑬ プレテンションド・ケーブルトラスの模型実験 | 九州工大 渡辺 明・出光 隆・○豊福 俊春 |
| ⑭ 地動位相差を考慮した種々の橋梁の地震応答 | 九 大 小坪 清真・○原田 譲二 |
| ⑮ ラーメンの弾塑性安定に関する一考察 | 九 大 山崎 徳也・○石川信隆・福岡建設コンサルタント 須藤 実 |
| ⑯ 非正六角形孔を有する I 型片持ばりの孔縁応力 | 九 大 山崎 徳也・○後藤恵之輔 |
| ⑰ 水平荷重によるラーメンの動的弾塑性解析 | 九 大 山崎 徳也・○黒木 健実 |
| ⑱ 弾塑性領域を考慮した有限変形について | 九 大 山崎 徳也・○後藤 栄一 |

◎ 第 3 会場 (水理学・河川港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等 (21 題))

- ① 埋立ゴミの分解過程の考察 福 大 花 島 正 孝
- ② 地下塩水汲上げによる淡塩境界面の解析 九 大 上 田 年 比 古・九 州 産 大 〇 崎 山 正 常
- ③ 集水暗きょの取水量の解析 九 大 上 田 年 比 古・〇 杉 尾 哲
- ④ 浄水過程の消毒塩素による農薬 PCP の酸化分解について 九 大 〇 上 田 年 比 古・荒 井 弓 子
- ⑤ 曝気槽における気泡噴流の挙動と曝気効果 九 大 粟 谷 陽 一・〇 田 中 紐 彦・小 山 弘 道
- ⑥ フロックのせん断強度とチャンネルリングの機構 九 大 粟 谷 陽 一・楠 田 哲 也・中 司 泰 雄・江 副 章 之 助
- ⑦ 甘藷でん粉廃液処理の実験的研究 (第 4 報) 宮 大 石 黒 政 儀・〇 平 木 次 男・桃 坂 繁
- ⑧ 下水道計画における降雨と流出の実測的研究 (第 2 報) 宮 大 石 黒 政 儀・上 原 尚 明・〇 佐 藤 武
- ⑨ 昭和 42 年 7 月, 佐世保災害の降雨特性について 宮 大 石 黒 政 儀
- ⑩ 水叩シールの圧力と水面振動との関連について 宮 大 吉 高 益 男・島 田 米 夫・〇 高 野 重 利
- ⑪ 大野川の塩分侵入について 九 大 樺 東 一 郎・〇 古 本 勝 弘
- ⑫ 不透過連続水制の流水について 九 大 樺 東 一 郎・〇 田 原 誠・山 口 大 齊 藤 隆
- ⑬ 塩水楔の内部境界抵抗について 九 大 樺 東 一 郎・〇 浜 村 実
- ⑭ 貯水池の堆砂過程について (第 3 報) 九 大 樺 東 一 郎・平 野 宗 夫・〇 古 田 真
- ⑮ 河床砂礫の運動機構に関する研究 (第 1 報) ——滑面水路における移動速度—— 九 大 樺 東 一 郎・〇 平 野 宗 夫
- ⑯ 水平板式透過堤に関する基礎実験について 九 大 井 島 武 士・〇 松 尾 隆 彦
- ⑰ ステレオ式波高計による波浪観測について 九 大 井 島 武 士・松 尾 隆 彦・〇 石 川 敏 雄
- ⑱ 数値計算による有明海の波浪推算について 九 大 井 島 武 士・〇 副 島 毅
- ⑲ サージタンクの新しい安定判別公式を与える自動制御系のパターンの作成研究 九 電 村 瀬 次 男
- ⑳ サージタンク, 水圧管路の水の慣性および損失がサージタンク水位, あるいは有効落差に及ぼす影響について 九 電 村 瀬 次 男
- ㉑ 深淺測量の精度について 第 4 港 建 原 田 修・久 富 富 造・西 田 幸 男

◎ 第 4 会場 (土質力学・基礎工学・施工等 (17 題))

- ① PEP 矢板に関する基礎的研究 九 州 工 大 渡 辺 明・〇 石 井 啓 文・新 日 本 コ ン ク リ ー ト 前 原 昭 一 郎
- ② 六角川河口堰載荷試験について 九 州 地 建 堀 川 光 治・〇 武 内 重 信・中 川 安 典
- ③ 節 杭 の 支 持 力 九 州 産 大 石 堂 稔
- ④ 深い地盤中の鋼管橋脚の地震応答計算法 九 大 小 坪 清 真・九 州 工 大 〇 高 西 照 彦
- ⑤ 基礎の動的水平抵抗について 九 大 小 坪 清 真・〇 花 田 和 史
- ⑥ 鋼管杭の鉛直方向復素復元力の特徴 九 大 小 坪 清 真・〇 荒 牧 軍 治
- ⑦ 堰下流底面せん断力に関する研究 元 九 州 地 建 〇 秋 竹 敏 夫・九 州 地 建 畔 津 幹 郎
- ⑧ 砂の動的および静的せん断抵抗について 九 大 山 内 豊 聡・〇 豊 田 奉 節
- ⑨ 粒状体の重力流について 九 大 山 内 豊 聡・〇 久 率 勝 行
- ⑩ 転炉滓を添加した真砂土の性質について 福 大 吉 田 信 夫・〇 中 川 邦 彦・林 正 治
- ⑪ シラスの法面処理に関する一考察——シラス法面の施工と管理—— 九 州 地 建 瀬 戸 充・中 本 至・〇 林 健 次 郎
- ⑫ Fe 石灰を利用した土工について 国 鉄 下 関 工 事 局 町 田 富 士 夫
- ⑬ 火山砕屑岩 (通称灰土) の安定処理に関する研究 (第 2 報) 熊 大 梶 原 光 久・井 上 洋 介・道 路 公 団 福 岡 支 社 下 荒 磯 滋
- ⑭ 粘土の応力緩和に関する研究 宮 大 藤 本 広
- ⑮ 垂直および水平方向の圧密試験結果について 福 大 〇 吉 田 信 夫・松 田 有 弘
- ⑯ 実験計画法による安定処理土の検討について——真砂土の一軸圧縮強度—— 福 大 吉 田 信 夫・〇 福 田 広 文・沢 井 源 市
- ⑰ 焼化による頁岩の水中崩壊性変化について 九 州 工 業 技 術 試 験 所 松 田 応 作・〇 三 浦 哲 彦

◎ 第 5 会場 (コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・道路交通・衛生工学の 1 部等 (18 題))

- ① コンクリートの弾性係数測定について 九 大 徳 光 善 治・〇 政 近 範 光・太 田 正 彦
- ② コンクリートのクリープ回復について 九 大 徳 光 善 治・石 川 達 夫・〇 大 和 竹 史
- ③ まだ固まらないコンクリートの分離試験 九 大 徳 光 善 治・文 濟 吉・〇 水 上 惠 記
- ④ コンクリートの配合とクリープの関係 九 州 工 大 渡 辺 明・出 光 隆・〇 宮 川 邦 彦
- ⑤ 転炉滓の利用に関する 2, 3 の実験 九 州 工 大 渡 辺 明・〇 松 本 進・入 江 興 産・入 江 伸 明
- ⑥ コンクリートの強度および変形におよぼす粗骨材の影響 宮 大 久 原 中 吾・〇 藤 瀬 勉
- ⑦ コンクリートのボンド疲労について 九 大 水 野 高 明・〇 松 下 博 通・九 州 工 大 出 光 隆
- ⑧ 砕石の角ばり度の測定方法 九 大 水 野 高 明・〇 谷 脇 鉄 男
- ⑨ スランプ+0 cm のコンクリートの単位水量に及ぼす配合要因の効果について 八 幡 化 学 工 業 阪 本 好 史
- ⑩ 下釜ダム基礎グラウトの注入特性について 九 州 地 建 〇 花 籠 秀 輔・松 本 宏
- ⑪ 大川橋の交通量について——無料開放による交通量の変化—— 道 路 公 団 福 岡 支 社 倉 沢 真 也
- ⑫ 配分交通量の推定について 九 大 内 田 一 郎・〇 坂 本 修 一
- ⑬ 交通量調査に関する一考察 九 州 地 建 稲 見 俊 明・〇 吉 岡 洋 二
- ⑭ トリップ長分布と地域間交通需要に関する一考察——国道 221 号 (加久藤峠) 交通需要推定—— 九 州 地 建 〇 稲 見 俊 明・針 貝 武 紀
- ⑮ 凝集剤相互の組合せが凝集に及ぼす影響について 九 大 上 田 年 比 古・〇 加 納 正 道
- ⑯ 上向流中のフロックの成長と破壊 九 大 粟 谷 陽 一・楠 田 哲 也・江 副 章 之 介・中 司 泰 雄
- ⑰ 水平流沈殿池における密度流と死水領域の発生機構について (II) 九 大 粟 谷 陽 一・〇 楠 田 哲 也・桐 岡 洋 子
- ⑱ フロック粒子の衝突頻度について 九 大 〇 粟 谷 陽 一・楠 田 哲 也

第6回原子力総合シンポジウム

◀ 2月19日(月)～20日(火) ▶

関連 30 学協会の共同主催・日本学術会議ほか5団体の後援で、原子力研究を軸として、専門分野を異にする研究者・技術者間の知識の交流および普及をはかる目的で標記のシンポジウムを開催しますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 会 場：国立教育会館（ホール・大会議室・中会議室）〔東京都千代田区霞ヶ関 3-2-3〕
2. 内 容：

2月19日(月) A会場（1階虎ノ門ホール）

開 会 9.30

開 会 の 辞

接 拶

講 演 1. (10.00～10.50) 原子力開発と基礎研究

講 演 2. (11.00～11.50) 国内および海外における核燃料資源の現状と将来

◎B 会 場（6階大会議室）

総合講演 1. (13.00～16.00) 動力炉開発と燃料材料照射

◎C 会 場（6階中会議室）

総合講演 2. (13.00～16.00) 核燃料再処理の諸問題

2月20日(火)

◎B 会 場（6階大会議室）

総合講演 3. (9.30～12.30) 新型転換炉と高速増殖炉

総合講演 4. (13.30～15.00) 動力炉の運転経験

総合講演 5. (15.00～17.00) 原子炉圧力容器について

◎C 会 場（6階中会議室）

講 演 3. (9.30～10.20) 原子力 MHD 発電の現状

講 演 4. (10.30～11.20) アイソトープのエネルギー利用

講 演 5. (11.30～12.20) 海水淡水化研究の現状

講 演 6. (13.30～14.20) 粉末ポリエチレンの製造

講 演 7. (14.30～15.20) Fissionchemistry

講 演 8. (15.30～16.20) 核分裂の物理化学

運営委員長 品 川 睦 明
 日本原子力学会会長 大 山 松 次 郎
 (原子力委員) 武 藤 俊 之 助
 座 長 大 山 松 次 郎
 (動 燃) 神 山 貞 二
 座 長 品 川 睦 明

座長(原研) 上 田 隆 三

座長(東大・工) 向 坊 隆・座長(東工大) 高 島 洋 一

座長(東工大) 青 木 成 文・座長(東大) 三 島 良 績

座長(東京電力) 豊 田 正 敏

座長(東京電力) 寺 田 重 三 郎

(原子力船事業団) ○西堀栄三郎・(原研) 矢 野 淑 郎

座長(電試) 森 英 夫

(東大・生研) 加 藤 正 夫

座長(阪大・工) 吹 田 徳 雄

(日 立) 葛 岡 常 雄

座長(東工大) 垣 花 秀 武

(原 研) 宗 像 英 二

座長(京大・工) 岡 村 誠 三

(阪大・工) 品 川 睦 明

座長(東大・理) 浜 口 博

(阪大・理) 音 在 清 輝

座長(学習院大・理) 木 越 邦 彦

3. そ の 他：詳細は運営委員会事務局（東京都港区新橋 1-1-13 電 591-5489 (内 59) 日本原子力学会気付）へお問合せ下さい。

「金属のサーフェシング」シンポジウム

◀ 3月16日(土) ▶

主 催：日 本 溶 接 協 会

協 賛：土 木 学 会 ほか 4 団 体

1. 日 時：1968年3月16日(土) 10.00～16.30
2. 場 所：早稲田大学理工学部二号館(二階) 203 教室(東京都新宿区西大久保 4-170)
3. 受 講 料：3000円(資料は当日会場でお渡しいたします)
4. 申 込 方 法：所定の用紙に記入の上、受講料を添えて、日本溶接協会特殊材料溶接研究委員会（東京都千代田区神田佐久間町 1-11 電話 253-0581）へ申込み下さい。

なお、詳細は直接上記宛にお問合せ願います。